

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 28 日現在

機関番号：37301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26420633

研究課題名(和文)キリシタン集落形成の変遷に関する研究

研究課題名(英文)Study on the Change of Christian colony-forming

研究代表者

村田 明久(Murata, Akihisa)

長崎総合科学大学・工学(系)研究科(研究院)・名誉教授

研究者番号：40113253

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：16, 17世紀、イエズス会書簡集を中心に見直し、日本資料と重ねることで、西海地方へのキリスト教布教が、集落や都市の形成に大きな影響を与えたことがわかった。その内容は、宣教師の動きに伴い、村や町において集落形成の盛衰の過程が見られ、少なくとも五段階の変遷過程をたどることができた。このことから、当時のキリシタン社会の形成が視覚化され、現地の史跡や習俗、歴史などの理解に役立つものと考えられる。

研究成果の概要(英文)：In 16, the 17th century, I knew that the Christianity propagation to the Japanese Saikai district had a big influence on the formation of the Japanese village and city mainly on the Society of Jesus collected letters in review, putting it on a Japanese document. As a result, with the movement of the propagator, a process of the colony-forming ups and downs was seen in a village and a town and was able to clarify at least five phases of formation processes. From this, the formation of the then Christian society is visualized and thinks that I help understanding such as local historic spot and manners and customs, the history.

研究分野：都市史、都市計画、地域計画

キーワード：都市計画・建築計画 文化的景観 キリシタン集落 禁教令 イエズス会書簡集 集落形成

1. 研究開始当初の背景

(1) 学術的背景では、日本のキリシタン時代は宗教史、民俗学、地域史などで研究されているが、精神的、習俗的、歴史的なまとめが中心である。このため、西欧文明の影響から見た集落、都市については、明治以降の近代のものに限られ、これより前のとりわけキリシタン関連の史跡、地域について価値付けが十分なされて来なかった。

(2) 16, 17 世紀当時の日本資料はキリシタン関連が少なく、さらに近年の都市化の進行もあり、解明の難しさがある。イエズス会書簡集など外国資料がそろえられるようになったが、十分に活用されているとはいえず、地域史でも省略されたり誤用などが見受けられ、統一的に把握する必要がある。

2. 研究の目的

16, 17 世紀に海外交流が行われた西海地方(長崎周辺、大村、平戸、五島、島原、天草)を調査対象地として、近世期の集落絵図と現在の地図を画像照合する手法などを用いて、キリシタン集落位置を特定し、その集落形成の特徴について比較研究を行うことで、キリシタン集落の変遷過程について解明することを目的とする。

3. 研究の方法

(1) 西海地域を対象に、16, 17 世紀のイエズス会書簡集との関連地を探し出し、キリシタン集落の場所特定を進めた。宣教師関連地とキリシタン移住地を調査対象地に仮定したが、後者は書簡集と関連がほとんどないため、前者の直接的な宣教師の活動地を基本に選別した。

(2) 対象地について、史跡、郷土史を参考にし、現地調査で場所を確認、関係者に聞き取り調査した。場所特定に際しては、絵地図史料、地図データを用い、距離や地形環境などに留意して所在地を予想し、地形、距離、時

間などをとらえることで、できる限り客観的実証的に解明することに努めた。

4. 研究成果

(1) 日本へのキリスト教布教に伴い、西海地方では、平戸に始まり、大村、五島、島原、天草へと展開したことが知られているが、その町の位置や構成となると、一部を除き思いのほか不確かな記述表現が多かった。これまで一地域の港市や教会建設について論説もあるが、キリシタン集落形成をとらえることで、村や町の成長と衰退について西海地方全体の変遷の特徴をまとめた。このことで新たな知見として、村落の再編成、港町の新設(港市)、館から築城(城市)、教会施設の建設、地域集団のことがらが顕著にみられ、九州の地域社会に大きな影響を与えていたことがわかった。

(2) 平戸では、1549 年に鉄砲と貿易を契機に初期のキリスト教布教が始まった。生月島では、山田、堺目、一部、里の四ヵ所でキリシタン習俗が認められているが、集落形成まで十分に確認されていない。そこで、『田舎廻』(松浦史料博物館蔵)とイエズス会書簡集の資料を突き合わせることで、教会位置の特定にまで導いた。これらの四集落がそれぞれに教会をもち、主要道、地区を形成したことから、「慈悲の組」の組織形成を具体的に明らかにする筋道を示せた。集落社会の上では、大組を集落社会の単位とした、寺院地に教会がつくられた、主要道と波止場で構成されていたなど、初期キリシタン集落の形成の特徴がみられた。この論文は執筆中である。

(3) 五島では、1565 年に布教開始が知られるが、所在地まで十分に確認されていない。奥浦は一部知られているが、地形から寺院が教会地となり、港と集落が形成したことを現地確認した。福江では、城近く江川河口の町の中心地に教会地を置いたことを新しく見出した。後に、キリスト教徒にとり領主が敵で

あるのが、五島は平戸と似ている。福江は城市と港市を合わせた形成といえよう。この部分は、現地の市街地変化が激しく、当時の日本資料の裏付けが今後望まれる。

(4)大村は、日本最初のキリシタン大名純忠の領地である。1562年横瀬浦開港で最初の港市が形成したが、後に焼き討ちされた。現在、史跡開発されているが、教会施設の位置などに疑問がみられる。港市の形成を検討したところ、教会、修道院は波止場に近く、町は広範囲に決められたことが得られた。この論文は執筆中である。港市は、福田、長崎と次第に大村の近くに移った。

大村の城市形成では、地域史でも不明扱いが教会施設まで十分言及されていない。そこで、『三城小路図写』(大村市立史料館蔵)をもとに再検討し、位置などの解明を進める方法を用いた。このことで見出した城市の変遷は、1568年の初期教会は優先的に市街中心に配置したが、これは敵の襲撃に弱かった。これを機に領内の集団改宗が行われ、城市の形成は城から教会が出て修道院を並置し、語学所を兼ねた修院形式へ変化した。秀吉の禁教令で司祭は国外退去せず、坂口に教会と修道院を移し潜伏するが、前の修道院に避難をしたりした。秀吉の死で解消され、喜前は玖島新城をつくり、城前に教会と修道院を配置したが、解体されて終焉を迎えた。この過程から、大村の城市では大きく四段階の変化が認められた。

(5)島原では、港市については、1563年口之津が開港され、教会、修道院と港がつくられた。キリシタン大名の有馬義貞、晴信の日本資料はほとんどなく、有馬の城市の形成について、諸説あるが未だ本格的でない。ここでは地形状況から再考することで、城市形成の全体的な変遷について新しい知見を得た。有馬では、1579年に初期の教会、セミナリヨが城の中につくられたことを導いたが、これは竜造寺氏からの脅威に備えた構成とみられ

る。竜造寺死去の後、城の麓に教会を設け外に出るが、教会の南方に河港、西に慈善院を置き、東に広場を配するキリシタン集落を形成した。さらに禁教令で晴信は主導的役割を果たし、セミナリヨの存続を主張し、有家、加津佐などに潜伏し避難集落を形成した。秀吉の死で解消され、再度、広場に教会、セミナリヨを設けて他にない形式を確立するが、迫害により解体された。このことから、有馬の城市では大きく四段階の変化が認められた。

(6)キリシタン大名となる天草鎮尚、久種の天草領は、本拠が河内浦にあったことは先学により立証された。河内浦では、城、教会の位置について諸説がある。1563年にアルメイダは港の交渉を始め、崎津を港市として形成したとみられる。河内浦では、寺院地が教会地となり、修道院がつくられたことを見出した。禁教令発布の後、河内浦は宣教師や学生の避難先となり、コレジオは修道院につなげてつくられ、教会施設は一つにまとめられたことを導き出した。このことから、天草では崎津に港市、河内浦に教会とコレジオの形成が認められた。

(7)以上により、キリシタン集落形成には、次の五段階の変遷過程が認められた。()平戸で鉄砲や貿易を契機に、生月などでヴィレラの布教により始まり、寺院地が教会にかえられ、教会を中心とした慈悲の組の網によるキリシタン集落がつくられた。(-1)キリシタン大名が出てからは、港市と城市の二つが形成され、地域により兼ねられた。港市には港と教会施設がつくられ、城市には城を設け中心地に教会・修道院が形成された。(-2)集団改宗の後にバリニャーノが来日し、教区を定め、城市を序列化した。大村では、城の外に教会が出て、教会及び外国語学所のある修院を設け、有馬では、城内の教会とセミナリヨによる構成であったが、後に城の外に教会を設け、教会とセミナリヨによる構成

とした。()秀吉の禁教令後は、教会は閉鎖し、潜伏した。そこで、有馬、天草などに集団的な避難地が形成された。この構成は、応急的な潜伏形態をとった。()秀吉の死のあと、一時期、有馬では近世城下に広場の教会、大村では城下へ立地し復活的に形成したが、家康の禁教迫害により壊滅した。バリニャーノの -2 期を第一頂点、最後の 期を第二頂点としたキリシタン集落形成の変遷を見出した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 5 件)

村田明久、十六・七世紀、大村キリシタン町の構成についての解析 その一、長崎総合科学大学紀要、査読有、第 57 巻第 2 号、2018、pp.11-19、

<http://id.nii.ac.jp/1101/00000761/>

村田明久、新説・有馬のキリシタン町、長崎県地方史だより、査読無、第 77 号、2018、pp.1-2

村田明久、十六・七世紀、有馬にあったキリシタン町の解析、長崎総合科学大学紀要、査読有、第 57 巻第 1 号、2017、pp.11-19

村田明久、天草におけるコレジヨ関連施設の形成について、長崎総合科学大学紀要、査読有、第 56 巻第 1 号、2016、pp.43-47

村田明久、五島の初期教会堂と集落形成について、長崎総合科学大学紀要、査読有、第 56 巻第 1 号、2016、pp.48-53

[学会発表](計 5 件)

村田明久、有馬のキリシタン町について、長崎県地方史研究会、2017.6.25、長崎県勤労福祉会館(長崎県長崎市)

村田明久、16 世紀後半、西海地方におけるキリシタン集落形成の変遷について、日

本建築学会中国支部、2017.3.5、島根大学(島根県松江市)

村田明久、近世におけるキリシタン集落形成について 口之津港、日本建築学会大会、2015.9.5、東海大学湘南キャンパス(神奈川県平塚市)

村田明久、キリシタン集落形成における同姓集団の影響について、日本建築学会九州支部、2015.3.1、熊本県立大学(熊本県熊本市)

村田明久、家屋と墓地の関係性によるキリシタン集落形成の分析、日本建築学会大会、2014.9.14、神戸大学(兵庫県神戸市)

[図書](計 1 件)

下川達彌、村田明久、星野裕司、渡辺貴史、長崎市世界遺産推進室、長崎市外海の石積集落景観保存調査報告書(赤首・大野地区)、2018、145 頁

[その他]

有馬のキリシタン町・セナリヨと教会は「城内」・全容も説明、長崎新聞、田代菜津美記者、2017.7.7

6. 研究組織

(1)研究代表者

村田 明久(Murata, Akihisa)

長崎総合科学大学・大学院工学研究科・名誉教授

研究者番号：40113253